

関野委員長

続きまして、社会（公民的分野）についてです。発行業者は7者、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員

公民を学ぶ目標ですけれども、現代社会をとらえるものの見方や基礎を養うことであったり、社会の変化に対応した法や経済、金融に関することを学習すること、また、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要になる資質を養うことです。その観点から2つの教科書の特色を述べさせていただきたいと思います。

まず、東京書籍の教科書です。この教科書の中では基礎的な知識や概念を習得させ、また、さまざまな課題について、その解決の方法を考える力を身につけられることや、社会参画することの意味やそれを養っていく工

夫が編集の中に感じられました。章ごとに色分けをされていて、写真のページから始まり、何を学習するのかが非常にわかりやすくなっていました。文章はやさしい文章でした。用語についても先ほどの歴史と同じように、欄外に補足して理解が深められるように説明がつけられていたり、図や表や写真も多く取り入れられていました。「公民にアクセス」や「深めよう」、また、インタビュー、コラムなどで体現した知識を補うことによって理解を深められる工夫がされています。「公民にチャレンジ」や「トライ」で考えを深めたり、話をし、理解を深く展開させるような工夫があったかと思います。

もう1冊は育鵬社の教科書です。この教科書の特色は、まず、「なぜ公民を学ぶのか」という疑問の提起から始まっていて、公民とは何なのか、何を学ぶのかということが人生のものさしという形で書かれていました。自分の過去、現在、未来を考えることで、他人事であったことが自分事になり、また、学習の内容の理解につなげられていくようなつくりになっていました。「つかむ、調べる、まとめる」で公民的な資質を育む、そんな編修になっていたように思います。「考えよう」、「やってみよう」で、みずから考える設定もあります。章のはじめを入口として考えさせ、最後をまとめて学習の確認ができるようになっている、非常にできのよい教科書だと思います。

吉田委員

公民については、やはり法令、政治、経済を学ぶことによって個人と社会の関わりを理解して、社会の課題について、みずから考えようとする生徒を育むということを目指していただきたいと考えます。そういう点で教科書ですが、3つの教科書について述べたいと思います。

まず、東京書籍ですけれども、章のはじめに、スーパーマーケットから現代社会を見てみようとか、「ちがいのちがい」といったように、話し合える教材を用意して、身近な課題をみずからの手で探り出し、学習を深めようとする意欲につながると感じます。これは教員の調査書の中にも「見開きに、本時のテーマがあり、スムーズに課題に入れるように工夫されている」というふうにありますし、「ポイントには解説も準備され、わかりやすく工夫されている」というふうにも書かれておりました。また、公民として生きていく上では、いかに世の中のことを自分のこととしてとらえ、多くの人々の意見に耳を傾ける中で、自分の意見を主張するかが問われると思いますけれども、「公民にチャレンジ」のコーナーにおいて、個人の課題として、またグループの課題として、共に作業を行い、学びを深めることができるようになっていました。「深めよう」で学んだことを実際に生かすようにするために、コラムがあり、「トライ」によって実践活動へ

と結びつけるようになっている、頭の中で考えることから、実生活の中での実践に結びつけていくところが優れているというふうに思いました。何より身近な課題について学んだことを活用して話し合う場面の設定が多いということは、藤沢の生徒にぜひ身につけていただきたい力だと私は思います。

帝国書院については、歴史と同じように、学び方が大変よくわかるように構成されております。学習の前に、授業の始めに、学習課題があり、クローズアップで実社会の実例を示して、授業の後に「確認しよう」があり、学習上大切な手順を書き出す作業の紹介である「説明しよう」につながり、そして章の終わりに「学習を振り返ろう」ということを設定しています。細かい内容の点でも幾つかよいところがあるのですが、全体の流れとしては帝国書院もよいなと思いました。

育鵬社ですけれども、育鵬社はまず人生のものさしを掲載して、自分の過去、現在、未来を自覚させるためのシートがあって、自分を振り返ることができるようになっています。学び方として「やってみよう」とか「家族が生きてきた時代を調べよう」といったようなテーマの設定がしっかりとされており、「やってみよう」、「理解を深めよう」、「考えよう」で、生徒が身近に感じて意見交換ができるような題材も取り上げているというふうに思います。ただ、先ほど申し上げたように、実際の社会と自分たちを結びつけて考え、それを自分の考えをまとめた上でグループと協議をしていく、そういう実践的な活動の流れの中を見ていきますと、東京書籍がよいかなと思います。

井上委員

公民的分野につきましては、現代社会をとらえる見方とか考え方の基礎を養う学習、そして現代社会のとらえる見方、そして経済や金融というようなどころまで学習が重視される点をというふうに思います。そして課題の探求を通して社会の形成に参画する態度を養う、こういったことが求められる問題だと思います。そういう中で東京書籍につきましては、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として、必要な公民的資質の基礎を養う、あるいは人権尊重の意識、民主主義及び民主政治の理解をすること、そして社会の仕組みや経済活動に対する見方、考え方がしっかりと述べられておるというふうに感じました。

もう一点は育鵬社ですけれども、他人事ではなくて自分のこととして現代社会をとらえる教材を充実させているというふうに感じております。

以上から、私は育鵬社並びに東京書籍ということで説明いたしました。

小竹委員

先ほどからお話にのぼっております東京書籍と育鵬社ですけれども、どちらも国家機能とか行政、経済、社会保障など図や解説でとてもわかりや

すく丁寧に説明されていると思います。東京書籍ではシミュレーションが「市長に立候補してみよう」とか、模擬裁判などと具体例を示しながら考えることを促しております。巻末はレポートの作成のページがあり、資料の収集から読み取り、考察、話し合いの資料があります。震災についてですが、こちらの方は仙台の被災を取り扱っておりまして、この被災の実態もそうですけれども、その規模と復興、防災に向けての取り組みが示されておりまして。章ごとに学習のページがあって、家庭学習にも便利だと思いました。

育鵬社は、全体の記載が東京書籍よりも自由な形で進められているので、シミュレーションの具体例などはあまり示されていないけれども、その分、自分たちで題材を選んでプレゼンテーションができるようなゆとりと自由度が授業に参加できるようなタイプの教科書ではないかなと思いました。東京書籍に比べると、国の権利とか領土問題について詳しく提示をしております。また、東日本大震災については実際の出来事、それから各国からの支援とか世界から見た被災を受けた日本への評価などが記載されており、規律正しく対応する日本国民の評価が生徒たちの日本人としての誇らしさを感じてもらえる一助になるのではないかなと思いました。

本の一番初めに、「戦後の日本と世界の主なできごと」という年表がありまして、学習を始めるに当たってインパクトがあると思いました。

育鵬社がよろしいかと思います。

関野委員長

私も公民は育鵬社がいいと思います。先ほど阪井委員もおっしゃっていましたが、巻頭に「なぜ『公民』を学ぶのか？」という文章がありまして、自分も国や社会などの公の一員として考え、公のために行動できる人と公民の意味をわかりやすく説明するところから導入されています。また、「人生モノサシ」というページでは、法律、政治、経済、国際社会などがどのように自分と関わってくるのか、必要なかということが書かれていて、義務教育を修了して、社会に出る前の心構えを養うのにはとてもいいように感じました。「やってみよう」というページでは、取り組みやすいテーマを通して考え、話し合う活動ができるのもとてもいいなと感じました。「理解を深めよう」というコーナーでは、より詳しい記述がされていて、子どもたちの興味を引く内容になっているなと思います。以上のことから育鵬社がいいと思いました。

その他、ご意見ございますか。

吉田委員

今、東京書籍か育鵬社かというような感じで論点が整理されているのではないかと思います。いろいろな面で、先ほどの歴史もそうですけれども、人としての生き方、それから日本の国への愛情とか社会の形成についての

考え方、生き方については、歴史や公民の時間ということだけではなくて、中学生の生活、教育活動の全般を通して子どもたちに育んでいく力ではないかなと思います。そういう点で見て、教科書をどう使うか、教科書をどのような形で子どもたちに教えていくか、そういうポイントとあわせて子どもたちがどのように学ぶかということは非常に必要になってくるというふうに考えると、学び方が多いもの、それから先ほどから何度も申し上げておりますけれども、多面的、多角的に物事を見ていく力がつく、例えば日本や世界が抱える諸課題について話し合いによる学習ができて、それを深めさせていくができることから、全体に写真の量も多く、それによって資料から判断することができる。課題についても生徒が興味を持って実際に取り組んでいけるような、例えば今度、18歳で参政権が与えられますけれども、そういった課題があるものというような観点からすると、私はぜひ東京書籍を推したいと思います。

関野委員長

その他、ご意見ございますか。

ないようですので、たくさんのご意見、ありがとうございました。東京書籍と育鵬社ということで、いろいろご意見をいただきましたけれども、育鵬社の方が若干ご意見の数が多かったように思いますので、社会（公民的分野）は育鵬社ということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議ありませんので、社会（公民的分野）は育鵬社といたします。